【 平成 29 年 3 月 6 日　建設通信新聞 】

新三国TでCIM導入

測量設計業協「精度管理に不安」

群馬県ｉ―Con推進連絡会が初会合

群馬県内の受発注者で構成する群馬県i―Construction推進連絡会（会長・桑原正明関東地方整備局高崎河川国道事務所長）は3日、初会合を同事務所（高崎市）で開いた＝写真。同事務所は新三国トンネル工事にCIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）を導入していることを報告、群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県測量設計業協会（富永伸樹会長）は会員企業アンケート結果を披露した。

連絡会は、同事務所、同局の利根川水系砂防、八ッ場ダム工事、利根川ダム統合管理の各事務所、品木ダム水質管理所、県県土整備部、建協、測量設計業協会で構成。水資源機構群馬用水管理所もオブザーバーで参加した。

新三国トンネル工事について高崎河川国道事務所は、土捨て場やトンネル本体で効率化、品質向上を図るためCIMモデルの構築を進めていることを明らかにした。

利根川ダム統合管理事務所は、薗原ダム周辺の点検にUAV（無人航空機）を活用したこと、前橋観測所での流量観測を省力化するためADCP（超音波ドップラー流速プロファイラー）や電波流速計、画像解析を用いて検証を進めていることを披露。27日にROV（遠隔操作無人探査装置）でダム設備を点検することも明らかにした。

県は16年度のICT（情報通信技術）活用事例を紹介。起工測量から3次元データ納品までのフルスペックを対象とした県ICT活用工事（ICT土工）試行要領も1日から適用を始めたが、ICT建機による施工だけでも促進するため、部分的なICT活用も認める内容に近く改定することも説明した。

測量設計業協会が2月に会員35社に実施したICT活用アンケート（回答率100％）では、積極的に導入する考えの質問で「ある」が19社、「分からない」が13社と分かれた。ICT導入の課題や問題点の質問（複数回答）では、測量の需要動向、技術の習得、経費を挙げる企業が目立った。

意見交換で県の岩下勝則建設企画課長は「3次元で肝になるのはソフトだ。誰でも使いやすいものにならないと結局、外注することになる」、測量設計業協会の鳴田大和副会長は「精度管理をどこまで許せるのか不安だ」と語った。